

靴の歴史散歩 ⑨⑧

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

トモエヤの「マッキンレー靴」販売に関しては、すでに「靴の歴史散歩」①⑦で、汽車博覧会の「ポスター」を紹介しているが、その後の蒐集で、汽車博覧会の記念絵葉書も入手できたので、今回はそれを話題に取り上げてみたい。

毎度お世話になっている座右の書、石井研堂の『明治事物起原』に、「汽車博覧会の始」という項が載っているのので、それを以下に写す。

「明治三十九年、時事新報社の主催にて、市内大商店に謀り、日本鉄道会社のポギー車三輛を陳列車とし、外に貨車十二輛を連結して倉庫に当て、九月中旬大宮を発して、東北諸線より信越北越中央線を運転し、数十日間興行せり。」とあるので、博覧会の概要はお分かりいただけるかと思う。

絵葉書は『時事新報汽車博覧会絵葉書（三枚巻組）東京時事新報社』と書かれた袋付きで、一枚は駅前入口の賑わい風景。二枚目は、構内で順番を待つ群集。三枚目は、陳列車輛を前に、ホームで行列をつくる人々である。（掲載写真参照）

主催者側がつくった絵葉書だから、大変な人気で入場者多数は結構だが、肝心の陳列車

内部の写真が一枚もないのは、資料価値の面からも、何とも残念でならない。

古い写真を見る時は、いつもルーペを手放さないようにしている。それは、思わぬ拾いものをするように、むかしが発見できるからである。

掲載写真の陳列車入口の左目線に、何やらひらがなの文字があって、それが何とも気になって仕方がなかった。ルーペを使いやっと判読したら、何と「つばをはくべからず」という、入場者への注意書であったのには驚いてしまった。その頃、多勢人の集まる場所では、こんな注意書も必要だったのであろうか。

今回は、実験的に掲載絵葉書を原寸大で載せ、私と同じ目線で同様の発見ができるか、ルーペで覗いていただきたい。もし読み取れたら、不思議な世界に入り込めた気になるので、ぜひお試し下さい。



時事新報汽車博覧会記念葉書